

沖縄を撮る 映画監督 野村岳也 - 3 作品上映 -

【野村岳也】1933年1月23日生まれ。石川県七尾市出身。長年にわたり映画監督としてドキュメンタリー映画等の制作に携わる。『イザイホウ』(1967年)『糸満の女』(1968年)は、野村監督が30代に手がけた作品。2012年にメガホンを取った『ふじ学徒隊』(海燕社製作)は、映文連アワード2012文部科学大臣賞を受賞。2020年5月24日逝去。享年87歳。



『映画監督 野村岳也』

(製作 海燕社 / 2020年 / 12分)

2020年7月25日に開催された野村岳也追悼上映会のため製作されたショートムービー(12分)。海燕社のYouTubeチャンネルで公開中の作品。



海燕社の小さな映画会でのみ上映作品

『糸満の女』

(監督 野村岳也 / 1968年 / 27分)

...当時、私は製作スタッフとともに、男は海へ女は畑へ、あるいは男が魚を獲り、女がそれを売るといったようなシンプルな暮らしをさがし求めている。複雑化した現代社会では、そのような基本形態が殆ど見られなくなっていたからである...ある意味でこの作品は糸満に対する私たちの思いを描いたものであり、したがってナレーションなども現実とそぐわない表現があるかも知れない。私は、海を仲立ちとした男と女の生が、墓という死の家へ収斂されてゆく、そんな形を見ていたのである。ドキュメンタリーとしては独断と偏見が先行しているかもしれないが、その映像はまごうかたなく1968年の糸満の姿をあらわしている。(野村岳也)



映文連アワード2012 文部科学大臣賞受賞

『ふじ学徒隊』

(監督 野村岳也 / 製作 海燕社 / 2012年 / 48分)

今年も慰霊の日がやってくる。あの沖縄戦の悲劇を70余年の歳月は次第に歴史のかなたへと追いやろうとしている。戦争を知らない人々に、数少なくなった体験者の話に耳を傾けてもらいたい。
戦が終わる、戦場に動員された女子学徒隊の一つ「ふじ学徒隊」がふるさとへ帰ってくる。その時、ほとんど無傷で帰ったのは自分たちだけで他の学徒隊は半数以上の戦死者を出していることを知る。生きることが後ろめたく思われ、戦場のことを話せなかったという。自分たちはどうして生かされたのだろうか、と問うことから彼女たちの戦後が始まるのである.....(野村岳也・新聞寄稿/2018.6.16より)

上映作品、上映日は都合により変更することがあります。詳細は、海燕社のウェブサイト(<http://www.kaiensha.jp>)やSNSにてご確認ください。
新型コロナウイルス感染症対策へのご協力、宜しくお願いいたします。

古書店 うみつばめ

URL:<http://kaiensha.stores.jp> @KoshoUmitubame

海燕社のウェブ古書店うみつばめ。年中無休で開店しています。
こだわりは、画家 石垣克子デザイン、オリジナルブックカバー(単行本・新書・文庫本)とオリジナルしおり(3種類)です。
いずれかをご購入の本におつけします。
よい本と出会えますように。



ウェブ古書店